



東日本大震災から1年

被災地の教育現場のいまと今後

東日本大震災の発生から、間もなく1年が経過しようとしています。

東京では4年間にマグニチュード7クラスの地震の発生確率が70%という報道が伝わり、関西でも東南海、南海地震のふたつの巨大地震の恐れが消えていません。東日本大震災を風化させることなく、被災地の経験から学ばなければなりません。

今回の震災では、津波の被害が教育現場にも大きな影響を与えています。例えば、宮城県教育委員会が1月11日に発表したところによると、宮城県の公立学校(幼稚園から高校、特別支援学校)882校のうち、760校が被害を受けました。気仙沼市では、40校のうち、被害を免れたのはわずか2校でした。人的被害については、死者が児童5人、教員2人、行方不明が8人にのぼっています。

こうした甚大な被害を与えた震災を通して明らかになったことは、日頃からの防災教育の大切さでした。学校として、地域として、普段からどのような取り組みを行うことが大切なのかを考える「防災教育」はどうあるべきなのでしょう。また、被災地では、震災を経て改めて感じる「命の大切さ」、「生きるとはどういうことなのか」、「自分に今できることは何なのか」といったテーマを生徒と一緒に考える「いのちの授業」という取り組みが進められています。これらの取り組みのキーパーソンである気仙沼市教育委員会の伊東毅浩さんにお越しいただき、被災地の教育現場のいまと今後について、お聞きすることにしました。

お忙しいとは思いますが、ぜひ、ご参加ください。

★日時

2012年2月13日(月) 午後6時30分～9時

★場所

大阪市立大学文化交流センター
大セミナー室

大阪駅前第2ビル6階：JR東西線北新地駅真上

★基調報告

伊東 毅浩さん

気仙沼市教育委員会学校教育課長補佐兼指導係長

★特別ゲスト

矢野 裕俊さん

大阪市教育委員会委員長

★司会

柏木宏さん

大阪市立大学大学院 教授

参加無料、予約は不要。どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ：

E-mail: kashiwagi@gfcc.osaka-cu.ac.jp Tel: 090-4768-5145



支援の会のボラバスで、大阪から気仙沼に支援にきた人々と写真に収まる伊東さん(左)

伊東 毅浩さん プロフィール

1962年生まれ。福島大学を卒業後、気仙沼市立松岩中学校で教職をスタート。歌津中学校、唐桑中学校、気仙沼支援学校を経て、2010度より、気仙沼市教育委員会学校教育課長補佐兼指導係長(指導主事)として、ESD[持続的発展教育]等を担当。

共生社会東日本地震被災者救援・支援の会とは？

3月11日の東日本大震災発生直後、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野の教員・院生・修了生を中心に設立された任意団体です。宮城県気仙沼周辺地域の被災者への救援と地域の復興活動を支援するために、大阪でNPO、行政、企業と連携しながら活動を進めています。詳しくは、以下のサイトをご覧ください。

▼ <http://www.justmystage.com/home/ptakorabo/kyouseisyakai/kyouseitop.html> ▲